

「鍵預かりサービス」協定

すずらん病院と登別社協

青葉小校区

独居高齢者の安否確認



協定書を締結して握手を
交わす仲川会長（右）と
志田理事長

【登別】登別市社会福祉協議会（片倉町、仲川弘誓会長）と医療法人登別すずらん病院（青葉町、志田勇人理事長）は1日、独居高齢者などの自宅の鍵を地域の24時間対応の福祉施設で預かる「鍵預かりサービス事業」の協定を締結した。同事業に協力するのは5事業者目で、青葉小学校区で実施する。（奥野浩章）

同事業は2016年度から実施。75歳以上の独居高齢者や認知症や障害によつて必要性を感じる人を対象に、万が一に備えて事前に自宅の鍵を預かる。安否確認が必要な場合は、事業協力が鍵を取りに行く仕組み。

現在、登別、幌別東、富岸、若草、鷺別の各小校区で実施しており、利用登録者数は28人、事業協力は104人。年間2〜3件の稼働実績があり、中には救急活動によって一命を取り留めた事例もある。

同病院で協定締結式が行われ、協定書に調印した仲川会長は「何とか社協としては全地区を網羅したいと考えている。今回、すずらん病院が全面的に協力してくれることとなり、大変感謝している」と述べた。

志田理事長は「少しでも地域のために貢献できたら病院としてもうれしいこと。これからも登別市にとつて協力できることがあれば声をかけてほしい」と話していた。